

令和 4 年 5 月 9 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00265

研究課題名(和文)九州地域における伝統産業需要の計量分析 - 公統計・アンケート調査データをベースに -

研究課題名(英文)A Quantitative Analysis of Traditional Industry Demand in Kyushu Area

研究代表者

内山 敏典 (UCHIYAMA, Toshinori)

九州産業大学・学術研究推進機構・科研費特任研究員

研究者番号：10151903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：九州地域の伝統工芸品需要の減少がその財の産地の衰退をもたらす。それにともな
って、「ものづくり」の技術が悲観的な状況である。それゆえ、その需要構造を分析することが必要
であった。そのために公統計データで価格弾力性と所得弾力性を計測した。伝統工芸品需要は所得効果に影響さ
れていた。アンケート調査データで、伝統工芸品購入頻度にどの購入動機という説明変数に影響されるかという
多重分類分析を行い、生産者と消費者とに意識の差にその一因があることを示した。また、調査データから、こ
の需要は伝統工芸品のデザインにも関係していること、インバウンド需要に加えてソーシャルメディア利用が重
要であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伝統工芸品に対する産地の調査はインタビューによる意識調査等の傾向分析はあるが、学術的には伝統工芸品
の公統計データ及びアンケート調査データを利用した需要構造の計量分析による実証研究は存在しなかった。本
研究で得られたこの需要は所得効果が強く、生産者と消費者との間に意識の差があること、財のデザイン、イン
バウンド需要に加えてソーシャルメディア利用の重要性を明らかにしたことは社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Decrease of demand for traditional crafts in Kyushu area brings a decline in
a producing center of the goods. Technology of manufacturing is the pessimistic situation in Japan.
Therefore it was important for us to analyze the demand structure. First, we measured the price
elasticity and income elasticity by official statistical data. Next, multiple classification
analysis method analyzed what kind of purchase motive the purchase frequency influenced using a
survey attitudes data, and we showed that the great difference in the consciousness is between the
producer and the consumer. Third, this demand was related to the design of the traditional work from
survey data, and we showed that social use of media as well as inbound demand is important.

研究分野：伝統工芸品需要の計量分析

キーワード：伝統工芸品需要 公統計・アンケート調査 価格効果 所得効果 動学モデル 多重分類分析 インバ
ウンド需要 実証研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等につ
いては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

全国に限らず、九州地方における伝統工芸品需要の減少はその財の産地までも衰退させるとともに、わが国の「ものづくり」の技術を途絶えさせることにつながりかねない。そこで、伝統工芸品産業が将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たしながら発展にしていけるために、変化が激しい伝統工芸品需要に関し、デザインという視覚を含めたアンケート調査を行い、統計解析を通じて、消費者の購買行動を解明する。また、その結果に基づき、九州地域の伝統的工芸品産業を「持続可能な産業」として再生できるかどうかを喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

伝統工芸品産業の衰退傾向に対して、この産業の需要構造を計量分析による実証研究を行うことを目的とする。この研究目的に対して、公統計データ及びアンケート調査データの計量分析から明らかにした。

国内外において公統計データを用い、伝統産業需要に特化した実証研究はこれまでなされていない。また、国内におけるアンケート調査による伝統工芸品の意識調査は単純集計にとどまる傾向分析であり、計量分析による実証分析やデザインという視覚を含めたアンケート調査データを用いて統計手法による計測はほとんどなされていない。

3. 研究の方法

3年間の研究で、公統計データに基づくデータは、クロス・セクション分析及びタイム・シリーズ分析それぞれの因果分析を行った。また、アンケート調査に基づくデータの分析は多重分類分析を行うとともに、数量化分析及び傾向分析を行った。この3年間の研究でわれわれは雑誌論文計9本(うち査読付論文8件)と本研究を進める契機となった3件の雑誌論文(査読付論文3件)を加え、これらを加筆修正することによって体系化し、まえがき、序章及び終章を新たに加えて『九州地域における伝統産業需要の計量分析 公統計・アンケート調査をベースに』というタイトルで研究成果をまとめることを研究方法とした。

4. 研究成果

3年間のもっとも重要な成果は、この期間の研究成果のまとめとして、内山敏典・釜堀文孝・黒木宏一(2022年2月)『九州地域における伝統産業需要の計量分析 公統計・アンケート調査をベースに』,九州産業大学伝統みらい研究センター,1~305頁.を刊行したことである。本書は、本課題研究の成果から12本(内山単著7本;1章、4章、5章、6章、10章、11章及び12章、内山・黒木共著2本:2章及び3章、釜堀単著3本:7章、8章及び9章)の論文を体系的に整理した。加えて、各章の解題を序章に、

伝統産業に対する提言を終章に、それぞれ書き下ろし収録した。

本研究における3人の研究者は、2004年度採択の21世紀COEプログラムに引き続き、柿右衛門様式陶芸研究センター（2005年度から2017年度）と伝統みらい研究センター（2018年度から現在）において、全国や九州地方の伝統工芸品需要構造に関する研究および伝統工芸品の衰退の原因と活性化についての研究をおこなっている。本研究はこれまでおこなってきた研究をベースに科研費（研究課題番号：19K00265：九州地域における伝統産業需要の計量分析 公統計・アンケート調査をベースに）のテーマについて研究を続けてきた。本研究はこの科研費研究成果を中心に伝統産業の現状と展望を明らかにする。

そこで、柿右衛門様式陶芸研究センターで公刊した10章では、福岡県企画・地域振興部調査統計課『2006年産業連関表の取引表（生産者価格評価表36部門）』のデータを用い、産業連関分析を行った。この計測結果から、伝統産業関連が発展するかは、これまでのシミュレーションが国内外の観光客の増加によって伝統産業の繊維、陶磁器、木製品およびホテル・旅館等の対個人サービスの生産額が増加することに繋がっている。11章では、web上で公表されている61窯元の情報である。窯元の平均的意識として、唐津焼発祥の地である北波多村・双水・相知町・巖木町のグループに属する窯元が古唐津焼や朝鮮唐津をとくに目標として作陶しているわけではない。それ以外の窯元も古唐津焼・朝鮮唐津の作陶や、消費者のニーズにあった唐津焼を目標として作陶している傾向がある。12章では、諸富家具共同振興組合に依頼した20社の経営者の意識調査である。その企業は各社それぞれのポリシーに基づいた製品生産を行っているが、「諸富家具」というブランドイメージ戦略が確立されていないように思われるので、早急の対策が望まれる。

1章および2章は、公統計（『家計調査』）データを用いて伝統工芸品に対応する需要項目の全国および九州地方それぞれのクロス・セクション及びタイム・シリーズ（動学）それぞれの需要構造分析である。

1章では、わが国における伝統工芸品（繊維製品、陶磁器、漆器、）および福岡県伝統産業（大川家具、博多織、久留米緋、小石原焼および上野焼）と、これらの伝統工芸品に対応する『家計調査』における「茶碗」、「皿」、「茶碗・皿・鉢」、「たんす」、「食器戸棚」、「婦人絹着物」、「婦人着物」および「婦人帯」の耐久消費財需要とは減少傾向にありながらも高品質の財を購入している。生産者は、他分野のデザインのコラボレーションを図る、環境を意識した製品の開発、消費者の選択肢が多く可能、外国人へのIT（Information Technology）を利用した販売など、高付加価値の財を生産していくことが重要であるとの結論を得た。

2章では、全国、九州地方および北九州・福岡大都市圏から、主につぎのことが結論づけられる。所得弾力性から、「たんす」、「食器戸棚」、「婦人用着物」および「婦人用帯」は大きく、所得増加が当該財需要にもたらす影響が大きい。全国および九州地

方は「茶わん・皿・鉢」の所得弾力性が小さく、所得効果は小さい。とくに、この傾向は北九州・福岡大都市圏に見られる。価格弾力性から、全国の「婦人用着物」を除けば、価格効果がほとんどない。ストック（保有量）効果から、全国の「茶わん・皿・鉢」、「婦人用着物」および「婦人用帯」はあまり働いていない。これら以外は、過去の需要がほとんど現在の需要に影響していない。

3章から6章はアンケート調査データを数量化 類に属する多重分類分析に基づいて計測している。

3章では、多重分類分析を用いて「陶磁器の購買意識に関する調査」のアンケート調査データを解析し、地方別及び先行研究と比較検討し、日常品としての陶磁器の品質と価格についての消費者意識の整理を行った。「価格が高くて品質が良ければ購入すると思う」との回答は、「男性」、「60歳以上」、「既婚」、「子どもなし」、「デパートで購入」、「購入価格は1,000円以上」に反応した。また、「そうは思わない」との回答は、「男性」、「未婚」、「子どもあり」、「世帯年収400万円未満」、「スーパーマーケット等で購入」、「購入価格は500円未満」に反応した。「価格が高くて品質が良ければ購入する」と思うとの回答は、「性別」の部分に異なる傾向の結果を得た。

4章では、専業主婦が購入する日用品としての陶磁器購入意識について、「半年・1年1回購入」の専業主婦の購入行動は世帯収入800万円以下、購入価格500～1000円以下、地方は関東・中部・その他（北海道・東北・中国・四国）に反応している。「数年1回・それ以下で購入」の専業主婦の購入行動は、とくに子供有、年齢区分40～60歳未満、世帯収入800万円以上、購入場所スーパーマーケット等、1個当たりの購入価格1000円以上、地方は近畿・その他（北海道・東北・中国・四国）に反応している。「割れたとき・消耗したときに購入」の専業主婦の購入行動は、とくに子供有、年齢区分は40以上、世帯収入が400万円未満と800万円以上、購入場所については窯元・インターネット・陶器市・その他、1個当たりの購入価格は500円未満と500～1000円以上、地方は中部、近畿、九州に反応している。「陶磁器は購入しない」の専業主婦の購入行動は、年齢区分20～40歳未満、購入場所については質問項目すべてに関係しその中でもデパート、陶磁器以外の日用品を購入する場合1個当たりの購入価格は500円未満、地方は関東に反応している。

5章では、伝統的地場産業である博多織業の市場は危機的な状況となっている。現在の博多織需要構造は、1050人のアンケート調査の中で127人の成人女性（男性で博多織を所有している人は数十人）であるということからも危機的である。帯・着物・反物の需要は、高価な製品であるという認識の北部3県の成人女性であり、これらの成人女性の興味をひく製品の開発が望まれる。ネクタイ等の小物を購入は自らが所有しているものの買い替えや、贈答品として製品であり、1万円以下の新製品が望まれている。持続的に博多織製品の技法と産業として成立していくためには、献上博多織の高価な製品と、小物・インテリアの安価な製品の2極化した市場を考えるべきである。

6章では、久留米絣の生産額の減少傾向の歯止めがきかない状況下にある。国内繊維製品にも言えることでは、グローバル化にともない安価な繊維製品が輸入され消費者の選択肢が増えたこと、伝統工芸製品が社会のスタイルに対応してないことに起因している。現在の久留米絣は江戸時代からの現在までの時代背景を伴いながら、技術の伝承とともに生産がなされてきており、地域の伝統文化をも育んだ製品となっている。この産地を維持していくためには、久留米絣の認知度の設問で「知っているが、久留米絣製品を持っていない」と回答者は潜在的需要者であると考えられる。そこで、潜在的需要者は男性で、世帯年収600万円未満、職業はとくに会社員、学歴は「高卒」の回答者が多い。久留米絣製品の「作務衣からもんぺ」を持っているとの回答者は、性別や年齢には関係なく、世帯収入は600万円以上で、職業は会社経営・自営業・自由業・専業主婦（主夫）・パートアルバイト・無職で、学歴は高校卒・専門学校卒・短大卒との回答者が多い。久留米絣製品の「トートバッグからその他」を持っているとの回答者は、年齢階級は60歳以下で、職業は公務員・事務系会社員・専業主婦（主夫）・パートアルバイト・無職で、専門学校卒・短大卒・大学卒・大学院卒との回答者が多い。

7章から9章はコロナ禍前の伝統工芸品産業におけるインバウンド需要の可能性や、インバウンドをターゲットとした商品戦略等について、研究をおこなっている。

7章では、一部の伝統工芸品で売れない原因は日本の生活様式に合わなくなってきたからである。地域の伝統、風俗を通して生まれてきた伝統工芸は、残さなくてはならないものが多いのも確かである。九州には年間500万人のインバウンド客が訪れている。そのうちの30万人が伝統工芸の潜在市場ということを明らかにした。

8章では、インバウンドを市場として考え、その可能性についての研究である。その結果インバウンドを含めた海外市場は今後も増加傾向を示していること。また、訪日外国人の志向が商品の購入以外に文化の体験や、日本らしさを楽しみたいという層が増加していることもあり、インバウンドを含めた海外市場は伝統的工芸品産業にとって、対応すべき市場であるという結論に達した。

9章では、伝統的工芸品産業を含む地域産業は、それぞれの地域の技術や材料の集積から生まれ発展してきた経緯から、多くの企業形態は中小・零細企業である。今後、伝統的工芸品産業が生き延びるためには製品開発や広報・販売が重要な要因である。さらに企業においても技術や市場（社会環境）の変化が急激であるために、当面する問題の対応に負われる現実が存在していることが明らかとなった。

以上のように、本研究は計量的な実証分析をおこなって得られた結論である。本研究が全国及び九州地域における新たな伝統工芸品需要増加については各産地の生産向上へとつながり、技術及び文化の継承への指針となるものと期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内山敏典	4. 巻 第60巻第5・6号
2. 論文標題 アンケート調査に基づく専業主婦の陶磁器需要分析 購入頻度からのアプロ-チ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央大学経済学論纂	6. 最初と最後の頁 107～120頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山敏典	4. 巻 第3号
2. 論文標題 博多織需要に関する成人女性意識の計量分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集	6. 最初と最後の頁 1～28頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山敏典	4. 巻 第24巻第3・4号
2. 論文標題 伝統工芸品久留米絣の需要構造分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州産業大学エコノミクス	6. 最初と最後の頁 33～52頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山敏典・黒木宏一	4. 巻 第4号
2. 論文標題 「家計調査」にみる伝統工芸品需要の時系列分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集	6. 最初と最後の頁 1～17頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 釜堀文孝	4. 巻 第3号
2. 論文標題 伝統的工芸品産業におけるインバウンドをターゲットとした商品戦略	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集	6. 最初と最後の頁 29～41頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山敏典	4. 巻 第2号
2. 論文標題 伝統工芸品の需要構造分析 「家計調査」データの計測に基づく金額弾力性と数量弾力性からのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集	6. 最初と最後の頁 1～10頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木宏一・内山敏典	4. 巻 43号
2. 論文標題 日用品としての陶磁器の品質と価格に関する消費者意識の一考察 多重分類分析を用いたアンケート調査データの解析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAPA九州 (日本計画行政学会九州支部機関誌)	6. 最初と最後の頁 15～22頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 釜堀文孝	4. 巻 第2号
2. 論文標題 伝統的工芸品産業におけるインバウンド需要の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集	6. 最初と最後の頁 11～24頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 黒木宏一・内山敏典
2. 発表標題 陶磁器の製品特性と価格：20世紀前半の売立目録の統計分析
3. 学会等名 日本計画行政学会第44回全国大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 内山敏典・釜堀文孝・黒木宏一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州産業大学伝統みらい研究センター	5. 総ページ数 305頁
3. 書名 九州地域における伝統産業需要の計量分析 公統計・アンケート調査をベースに	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	釜堀 文孝 (KAMAHORI Fumitaka) (60320149)	九州産業大学・芸術学部・教授 (37102)	
研究分担者	黒木 宏一 (KUROKI Koichi) (00618150)	九州産業大学・経済学部・講師 (37102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------